



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 51 号

R4.3.4

文責 中西 勉



“ありがとう”の気持ちを伝えた「6年生を送る会」

今週3月1日(火)に、「6年生を送る会」を行いました。これまで委員会や通学班を中心に、男川小のリーダーとして一生懸命に頑張ってくれた6年生に、1～5年生がそれぞれの学年の趣向を凝らして“ありがとう”の気持ちを伝えました。今回は、新型コロナ感染予防のため、全校児童が体育館に入ることは避け、1～5年生は、1学年ずつ交代で発表をしました。当日、6年生は103名全員が出席し、後輩からの感謝の気持ちをしっかりと受け止めていました。大変和やかで温かい雰囲気のある会になり、うれしく思いました。この会の企画・運営をした5年生の活躍も光りました。



▲応援団のスタイルでエールを送る1年生



▲動きがそろったダンスを披露する2年生



▲6年生に感謝の言葉を述べる在校生代表



シリーズ「北京オリンピック」④ ～小さい頃の夢を叶えるために～

シリーズ第4回は、スノーボードハーフパイプ男子金メダリストの平野歩夢選手についてです。

平野選手は、初めて出場した2014年のソチ五輪と次の2018年の平昌五輪で、2大会連続の銀メダルに輝きました。しかし、二度とも、あと一步のところ、小さい頃からの夢であった「オリンピックで金メダルを取る」ことを叶えられませんでした。そこで、平野選手は、夏季五輪の競技のスケートボードにも挑戦するようになりました(昨夏の東京五輪にも出場)。平野選手が、様々なリスクを負ってまでスケートボードに取り組んだのは、足がボードに固定されていないスケートボードの方が高度なコントロール技術を要求され、それを経験することでスノーボードの技術向上につながると考えてのことでした。平野選手のこの挑戦は実を結び、今回の北京五輪では、トリプルコーク1440を含む“人類史上最高難度のルーティーン”を2回続けて成功させ、遂に小さい頃の夢を叶えることができました。

10年以上の長い年月をかけて、自らの努力の積み重ねによって小さい頃の夢を叶えた平野選手。今週の月曜集会では、平野選手のことを紹介し、その姿から、「夢」を明確な「目標」に変え、その目標を達成するためには自分が何をすべきかを考え、実行することが大切であることを男川っ子に話しました。今、子供たちが抱いているそれぞれの夢を、今後どんな形で叶えていくのかがとても楽しみです。

